経営比較分析表

埼玉県　上里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m^{3}当たり家庭料金(円)
-	46.69	99.83	2,062

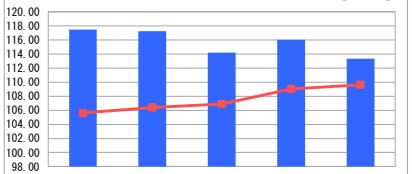
人口（人）	面積(km^2)	人口密度(人/km^2)
31,387	29.18	1,075.63
現在給水人口(人)	給水区域面積(km^2)	給水人口密度(人/km^2)
31,246	28.91	1,080.80

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
ー 類似団体平均値（平均値）
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【113.56】

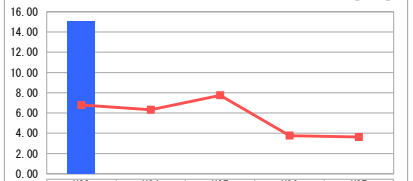


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	117.46	117.23	114.18	116.03	113.32
平均値	105.61	106.41	106.89	109.04	109.64

「経常損益」

②累積欠損金比率(%)

【0.87】

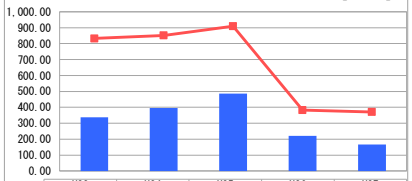


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	15.02	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	6.79	6.33	7.76	3.77	3.62

「累積欠損」

③流動比率(%)

【262.74】

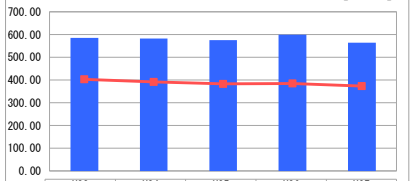


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	337.78	396.39	485.54	221.55	165.74
平均値	832.37	852.01	909.68	382.09	371.31

「支払能力」

④企業債残高対給水収益比率(%)

【276.38】

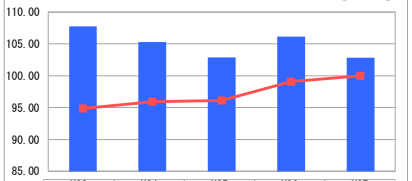


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	585.57	581.90	575.63	599.55	564.73
平均値	403.15	391.40	382.65	385.06	373.09

「債務残高」

⑤料金回収率(%)

【104.99】

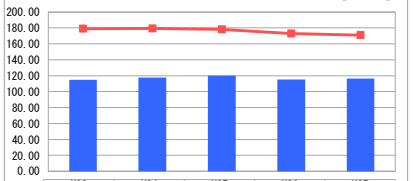


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	107.74	105.29	102.87	106.12	102.81
平均値	94.86	95.91	96.10	99.07	99.99

「料金水準の適切性」

⑥給水原価(円)

【163.72】

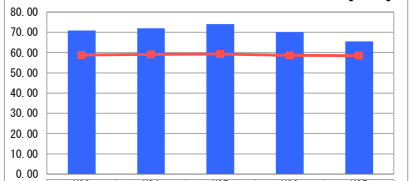


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	115.02	117.75	120.19	115.27	116.40
平均値	179.14	179.29	178.39	173.03	171.15

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【59.76】

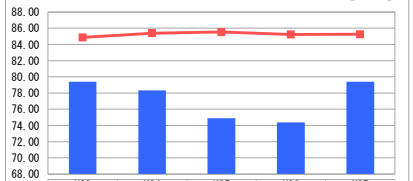


	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	70.88	72.00	74.06	70.02	65.55
平均値	58.76	59.09	59.23	58.58	58.53

「施設の効率性」

⑧有収率(%)

【89.95】



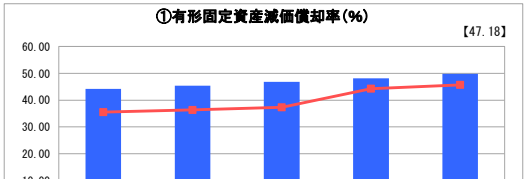
	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	79.41	78.31	74.90	74.36	79.41
平均値	84.87	85.40	85.53	85.23	85.26

「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【47.18】



	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	44.24	45.45	46.88	48.18	49.78
平均値	35.53	36.36	37.34	44.31	45.75

「施設全体の減価償却の状況」

②管路経年化率(%)

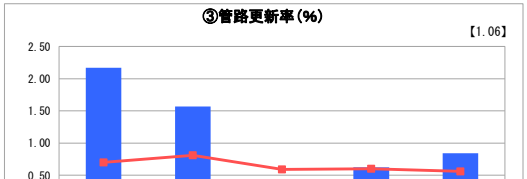
【13.18】

	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	0.00	0.00	0.00	42.51	41.78
平均値	6.47	7.80	8.39	10.09	10.54

「管路の経年化の状況」

③管路更新率(%)

【1.06】



	H23	H24	H25	H26	H27
当該値	2.17	1.57	0.00	0.62	0.84
平均値	0.70	0.81	0.59	0.60	0.56

「管路の更新投資の実施状況」

※　平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
　経常収支比率はＨ23年度以降、安定して100%以上に達しており、平均値を上回っている。
②累積欠損金比率
　累積欠損金が発生していないので、健全である。
③流動比率
　短期的な支払能力を示す値で、平均値を下回っている。現金の減少と企業債の増加が原因として考えられるが、100%を超えており年度間の変動はあるものの、短期的な支払に対する現金は確保されている。
④企業債残高対給水収益化率
　給水収益に対する企業債残高の割合であり,企業債残高の規模を表す指標で、平均値と比べ高い割合となっているが、これは給水原価が低い水準であり、それに伴う水道料金が低価格であることが一因していると考えられる。
⑤料金回収率
　給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを示す値で、Ｈ23年度以降100%を越えており、給水に係る費用が料金収入により賄われている。
⑥給水原価
　有収水量1㎥あたりの費用を表す「給水原価」は平均値よりも低く、上里町の水源の大部分が地下水で、浄水処理費が少なくて済むことが要因として挙げられる。
⑦施設利用率
　一日の配水能力に対する平均配水量の割合である「施設利用率」は、平均値を上回っている。
⑧有収率
　年間の総配水量に対する有収水料の割合である「有収率」は平均値を下回っている。主な理由としては経年による老朽管の劣化による漏水が考えられる。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合いを示している。減価償却の進行により上昇傾向にあり、平均値を上回っている。
②管路経年化率
　法定耐用年数を超えた管路の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示している。Ｈ26年度から集中的に発生しているが、これは、以前各地区に存在した地元の簡易水道組合が個別に整備を実施していた管路を町の水道事業が引き継いだ結果、法定耐用年数を経過した管路を保有することになったことが主な要因として挙げられる。
③管路更新率
　当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で管路の更新ペースや状況を把握できる。管路更新を行った年度は平均値を上回る更新率になるが、給配水ポンプなどの機械設備更新が必要な年度もあり、更新投資が減少すると更新率も上昇しない。

全体総括

　経営の健全性・効率性については、経常収支比率や料金回収率が平均値を上回っており、給水にかかる費用は給水収益で賄われているため概ね健全な水準であるといえる。
　しかしながら、有収率と流動比率は全国平均や類似団体平均より低くなっている。改善に向けて漏水調査及び漏水修繕を継続的に実施し効率性を高めていくとともに、今後、流動資産が減少し流動負債が増加していく傾向がみられるため、支払能力も高めていく経営改善を図っていかなければならない。
　また、水道事業に統合される前の、各地域の簡易水道組合の配水管を含めた管路の老朽化の問題や、災害時に安定した給水を確保するための管路・施設の耐震化が今後必要となり、これらを総合した経営計画による事業運営をおこなう必要がある。